

# 商品識別 AIレジ

## サインポスト 小売り人手不足解消

サインポスト（東京都中央区、蒲原寧社長、03・5652・6031）は電気通信大学の柳井啓司教授と共同開発した画像認識と人工知能（AI）を用いた次世代レジ「ワンダーレジ」を3月に発売する。コンビニエンスストアやスーパーなど人手不足に悩む小売業の人手不足の解消が目的。バーコードを使った既存のPOSレジと連動できるため大規模な設備導入は必要ない。2020年2月末までに3万台の販売を目指す。



カメラを搭載した箱一べた商品をレジ内3カ所のカメラで読み取り、AIが商品と登録された商品をひも付け、商品点数と合計金額

を瞬時に計算する。来店客を映すカメラも搭載しており顧客の年齢や性別情報をPOSレジと同様に残すこともできる。決済は電子マネーを使う。  
 ▲ ディープラーニング（深層学習）により、取得した画像から商品に記載された文字や形状などの特徴から人間の目で認識すると同じ

ようにAIが商品を識別する。同社の試算によると通常1店舗当たり平均4〜5人の店員が既存レジ3台を運用すると想定し、ワンダーレジ4台と既存レジ1台の合計5台で運用した場合、店員2人を削減できるという。これら画像認識で商品判断する技術などは特許を出願中。

ワンダーレジは店員が運用を支援する前提で設計しており、商品の読み取り不良など異常の場合は店員が対応する。また酒類やたばこなど年齢確認が必要な商品は店員が目視で確認し販売する。蒲原社長は「人員をゼロにするのではなく人員を減らし既存のレジシステムの効率を高めるのが目的。人手不足に悩む小売業の問題解決に貢献できる」と話す。サインポストは07年に設立。金融機関や行政機関向けにシステムコンサルティングなどを手がける。年商15億円。